

議 事 録

- 1 会 議 の 名 称 令和2年度第1回総合教育会議
- 2 開 催 日 時 令和2年8月6日(木)午後3時30分から4時30分まで
- 3 開 催 場 所 熊取町役場北館3階大会議室
- 4 議 題 案件1 今後の熊取町の教育活動について
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍 聴 者 数 0人

7 審議会等の概要

○案件1 今後の熊取町の教育活動について

- ・コロナ禍での風評被害やいじめなどがあるが、こういったことが起こらないような教育のあり方を考える必要があるのではないか。
- ・学力も大切ではあるが、その前に、一人間としてのモラルや道徳をいかに育てていくのかということが大きな命題ではないか。
- ・風評被害などが起こるのは、いじめの根本にある問題と一致していると思う。コロナが起こる前から、いじめというのは全国であると思う。ひとつに、インターネットやSNSなどのように、表に出ずに裏でそういうことができてしまうことが大きい。一方で、インターネットなどを完全に否定してしまうわけにはいかない。
- ・同調圧力というひとつの考えに合わせることを良しとすることがあるが、批判的な目や違う意見を持つ人間をどのように尊重していくのかという教育が必要である。多様性を認めていくという教育や多様性が強さの源であるということをきちんと教えていかなければならない。
- ・匿名ではなく、きちんと名前を出しても正常な議論と正常な信頼関係のもとに話す、意見を尊重できるということを、小学校の頃からする方が良いと思うが、実際の教育にどう落とし込んでいくのが難しい。
- ・最近、SNS上でのいじめの相談が多い。見えない所で悪口を言うのは大人の世界でも同じで、このコロナ禍でますます面と向かって話す機会が減っている昨今なので、一番危惧される問題だと思う。
- ・教える「教育」と、共に育つ「共育」もある。コロナに関しては正解が無く、どう向かっていけば良いのかという不安が背景にあるのでは。そういう点で、みんなが共に学び合いながら正解を探すなかで、熊取町は大きな問題やクラスターが起きていないのは、町

の教育方針に一定の成果があったのではないか。

- ・共に育つということにおいて、このコロナ禍というのは、すごく過酷だが良い機会かもしれない。
- ・いじめを無くす教育や新しい仕組みは、今教えている教え方の中に取り入れられることではないか。教える技量の問題もあるが、今ある教材を使って、コンセプトとして重要なことをいかに教えていくのかというのを常に考えるのも一つの方法である。
- ・視点が違うが、自粛生活をしている上で、SNSは子ども達にとって良かったと思う。情報があまり過ぎてパニックになった悪い側面もあるが、精神的な面では随分助けられた。使い方を子ども達に小さい頃からきちんと教え伝えていくことが大切。
- ・SNSなどを使いこなせていない世代と若い世代で、意見のギャップがある。若い人の意見も取り入れないと先に進まないと思う。
- ・心の問題を教科として教えるのではなく、人としての生き方というのを、日常のなか、学校で起こるインシデントを解決していくなかで教えていくことが大切。
- ・教科のなかで教えることは決まっており、それをどう教え心を育てるか。そういう点で、教師をどう支援するかが教育委員会の課題。
- ・教師を育てるには、色々な情報を入れていくことが大切。色々な情報を消化しながら子ども達と接して欲しい。
- ・仕事の忙しさと心の忙しさがある。一人に課せられたものを分けられるように教師の数を増やすのも一つの解決法。勤務時間を短くするだけでは、かえって心の余裕が無くなり、本当に大切な“目”を忘れてしまう。
- ・システムを変える時、働き方改革もそうだが、よく考えないと逆効果になる。
- ・財政的な課題や人材も必要だが、少人数クラスが良いのでは。
- ・教師が十分に確保出来ればというのが前提。いきなり教師を増やすと、先生を育てる教育係の先生が負担になる。
- ・非常に辛い状況の教師を若い人が見て、教師になる気持ちを失う。教師の教育システムを作りつつ、いかに良い人材を採用していくのが課題。
- ・子どもが減っている校区もある。クラス替えをすることで多様な人間関係を築くということを考えると、少人数クラスは一つの方法。
- ・全ての校区で、公平性という問題もあるが、各学校に応じたニーズを吸い上げて対応していただくのが重要。
- ・今後少人数クラスなどを行うのであれば、モデルケースを作り、そこで問題点をフィードバックしながら最終的に全町でやるとか、積極的な先生を選んでやっていかないといけない。
- ・コロナ禍でのいじめや風評被害には、非常に敏感にならなければならない。子ども達にもそういうことが起こらないように、コロナの前から人権を大切にする教育を熊取町はやっている。
- ・「相手の立場になって考える」といったような、多様性・自分と違うことを無視しない・自分と違うからこそ認めていくという非常に根本的なことが大事で、一番グローバルな考え

方だと思う。

- ・自分で考えて語る、友達の意見を聞いて良いところを取り入れる、そして自分の意見を修正するという度量のいることが大切なんだと教えている。
- ・今後 10 年 20 年先のことを考えると、AI やロボットが進化していった教育内容に関してもかなり考えないといけない。発想というのはコンピュータでは出来ないが、発想を豊かにすることと多様性というのはマッチする。いじめに関する問題だけでなく、AI・ロボットの世界を生きていくうえで、多様性を理解し相手の意見を聞くことによって頭が広がっていき、そういう教育にもつながるのでは。
- ・2040 年から逆算して、どういう町であるべきか。スマートシティの最大の目標は、住民にとっていかに生活しやすい町であるかということだが、それには「心」が大切で、幅の広い人間性の深い豊かな人間が求められる。感受性の豊かな包容力のある先生に、子ども達と一緒に生活するなかで学んでもらうのが、一つのあり方。良い人材をいかに探し求めるかというのもあるが、人材の育成は小中学校の教育から始まっている。
- ・SNS の良し悪しは使い方による。使い方について理解するまで子ども達に指導する。
- ・SDGs は教育にも反映されるが、社会が歪んできたことが背景にある。世界の環境はすごく酷いことになっているという情報を、いかに子ども達に認知してもらうか。そのなかで、自分はどうあるべきかというのを学んでいって欲しい。
- ・世界では学校に行けない子どももいるが、水汲みなどで自分の存在意義を感じている。日本は全く逆で、自己肯定感が低い。それにより、相手を下げることによって自分を上げるといういじめが起きる。自己肯定感を上げることが、心を育てるうえで非常に重要。
- ・AI などは自己肯定感を減らす可能性がある。発想を豊かにしていくことが大切。
- ・今、学校で起こっている問題の根底はそこにある。色んな価値観があってもいいんだというのを、世間が認めていないのが問題。
- ・評価ポイントをたくさん持たないといけない。
- ・一つの尺度ではなく、色んなもので評価することは可能。それには教師の技量がいる。
- ・子どものスペクトラムを見るのに、現代の技術を使うこともできる。その子の特性は、どの子も同じように役に立つ。
- ・教師にはゆとりを持って、子ども達には先生と色んなことを判断しながらやっていけるような教育があれば良いと思う。

8 審議会の情報	名称	総合教育会議
	根拠法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (昭和31年法律第162号)
	設置期間	平成27年4月1日から
	所掌事項	教育大綱の策定に関する協議等を行う。
	委員数	6人

9 担 当 課 総合政策部企画経営課